



**Data**

監督: ナタウト・プーンピリヤ  
 出演: チュティモン・ジョンジャル  
 ーンスックジン/チャーノ  
 ン・サンティナトーンクン/  
 ティーラドン・ス&#x167;バンピン  
 ヨー/イッサヤー・ホースワ  
 ン/タネート・ワラークヌ  
 クロ/バシン・クワンサタポ  
 ーン/サリンラット・トーマ  
 ット

## 👁️👁️ みどころ

“高校生版「オーシャンズ11」”は第一級クライム・エンタテインメントで、そのテーマは何とカンニング！学歴社会のタイでは奨学金付きの海外留学が若者たちの夢だが、そのためには、どうすれば・・・？

時差を活用した大規模なカンニングが本作最大の見どころ。それは意外に古典的なものだが、それを思いついた“バッド・ジーニアス”たちはやはりすごい。もっとも、そんなカンニングはマークシート方式だけで可能だから、いざ大学に入った後のカンニングの恩恵を受けた若者たちの運命は・・・？

カンニングは悪いことだからダメ。そりゃ誰にでもわっているが・・・。

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

## ■□タイで大ヒット！アジアで大ヒット！そのテーマは？■□

本作は“高校生版「オーシャンズ11」”の呼び声高く、世界16の国と地域で、サブライズ大ヒット！スタイリッシュでスリリングな、第一級クライム・エンタテインメント！らしい。そんな本作のテーマは、何とカンニング！本作のパンフレットには芝山幹郎の「速さと危うさを同居させる新しい才気の出現」と題する“Essay”と植田啓嗣の『バッド・ジーニアス』から見えてくるタイの学歴社会」と題する“Column”があり、それを読めば、タイの大学入学事情や留学事情がよくわかる。

本作のきっかけは現実に“時差を使ったカンニング”事件があったことだが、そんな題材を映画にすれば若者や社会に悪影響を与えるのでは・・・？そんな心配もあるが、そんなことを言えば犯罪映画は作れないし、『オーシャンズ』シリーズの大ヒットも説明がつかなくなってしまう。たしかにカンニングは良くないことだが、なぜ人間はそれをやってし

まうの・・・？

## ■□■マークシート方式なら、ピアノレッスン方式が最適！■□■

私が受験した1971年当時の司法試験は、択一式、論文式、口述式の3つがあったから大変だった。それに比べると、本作で授業料全額免除の特待奨学生として国内有数の進学校に入学した高校1年生の少女リン（チュティモン・ジョンジャールンスックジン）たちが受けている試験はマークシート方式だけだから、天才のリンにとって回答は簡単。さらに、勉強はてんでできないけれど天真爛漫な明るい性格で女優を目指しているグレース（イッサヤー・ホースワン）に対して、ある古典的なやり方のカンニングで回答を教えてやるのも簡単だった。

そこで舞い込んできたビジネス（？）が、グレースの彼氏で大金持ちの御曹司の帕特（ティーラドン・スパンピンヨー）からの集団カンニング。1人1科目につき3千パーツというから、貧しい父子家庭の娘リンにとっては魅力的な話だった。引き受けるべき？それとも断るべき？道徳的にはその答えは決まっているし、父親の価値観によれば迷う余地すらないが、なぜリンは迷ったの？それが本作全編を貫く論点だが、ストーリーはリンがピアノの4種類の指運びでマークシートのABCDを表すピアノレッスン方式のカンニングを思いついたことによって一気に進んでいく。しかして、ピアノレッスン方式のカンニングとは・・・？

こんな方法を思いついたのはもちろんリンの才能だが、カンニングに成功し、金がどんどん貯まっていたことによって、リンが何よりも考えるべき“カンニングの是非”と言う根本的な問題の回答が先送りになってしまったが、そりゃマズいのでは？もし、リンの父親がそれを知ったら・・・？

## ■□■両雄並び立たず？それとも・・・？■□■

たしかに、リンは数学に関しては天才の女子高生だが、もう一人の天才が、同じ学校でリンと同じ特待奨学生として在籍している男子高校生のバンク（チャーノン・サンティナトーンクン）だ。リンは父親と2人暮らしだが、バンクは母親と2人暮らしで、リン以上に貧乏生活をしていたが、帕特やグレースのような別世界の友人をもっているリンと違って、バンクはあくまで“孤高”を保っていた。リンとバンクはライバルとしてしのぎを削っていたわけではないが、生真面目なバンクにしてみれば、リンが大規模なカンニングに加担して大金を稼いでいる姿は容認できなかったらしい。そのため、ある日、バンクの口から校長に対して“ご注進”となったのだが、この手の密告（タレコミ）は如何なもの。昔から“両雄並び立たず”と言われているが、この密告（タレコミ）によってリンは国外留学のチャンスを奪われたばかりか、最愛の父親からも信頼をなくしてしまったから最悪！

そんな中、今度はリンに対して、グレースだけでなくパットのために、アメリカの大学に入学するため世界各国で行われている大学統一入試「STIC」でのカンニング要請が無い込んだが、リンは当然それを拒否。しかし、リンにとってはパットたちの「高額な報酬を支払う」という言葉は魅力的だったし、ある日、あるところで時差を活用した巧妙で大胆不敵なカンニングを思いつくと、あとは一気呵成に……。もともと、その作戦にはもう1人の天才が必要だったが、そこでリンが思いついた“両雄を並び立たせる”計画とは……？

## ■□■手法は意外に古典的！さて本番では？■□■

大学統一入試「STIC」で、オーストラリアとタイの2カ所で実施された“時差を使った世紀のカンニング”とは？本作中盤で展開されるリハーサル風景を経て、本作のクライマックスでは、オーストラリアに渡り、入試会場に臨んだリンとバンク2人の「バッド・ジーニアス」（危険な天才）による時差を活用したカンニングの大展開となるので、それに注目！

しかし、その手法は意外に古典的だ。しかも、私の評価ではその手法はイマイチ……。だって、テストの合間毎にトイレに通ったり、長い間トイレを“独占”しては怪しまれるのは当然。しかも、男子トイレはまだしも、女子トイレは混むことが予想されるから、予定通りにトイレの中に座れなければ、たちまち計画に狂いが生じるはずだ。「オーシャンズシリーズ」では、スリリングな展開の中での鮮やかな犯行の遂行が見モノだったが、本作のクライマックスでは、そんな私の心配が的中し、それほど鮮やかに2人の作戦が進むわけではなく、むしろ苦戦の連続になるので、それに注目！

そんな2人の作戦による世紀のカンニングの結末と、「STIC」終了後の更なる2人の“挑戦”については、あなた自身の目でしっかりと。

2018（平成30）年10月12日記